

平成8年度

## 幼児の自立の基礎を培うための評価の在り方を探る

・ 幼児のよさを見つけ出すフィードフォワードの評価を通して ……

川崎市総合教育センター 幼児教育Ⅰ研究会議

# 幼児の自立の基礎を培うための評価の在り方を探る

## — 幼児のよさを見つけ出すフィードフォワードの評価を通して —

幼児教育研究会議

三井 浩子<sup>1</sup>

吉岡 久美<sup>2</sup>

森田喜巳子<sup>3</sup>

金井久美子<sup>4</sup>

### 要 約

幼児期は身体的な発達も著しく、情緒や社会性といった人格形成の基礎を確立する大切な時期である。また、好奇心や探究心といった知的な面でも急速に発達していく。その大切な幼児期に、初めて経験する社会生活の場である幼稚園は、幼児の発達に大きくかかわってくる。様々な家庭環境で、幼児は一人一人それぞれ異なった経験を経て成長してきている。このような幼児を受け止め見取り、一人一人の発達を理解して、適切に援助していくことで、幼児は力を発揮していくことができる。幼稚園教育指導書では「評価は、実践を通して、一人一人の幼児の発達を理解することと、教師の指導に対するものとの二面を合わせて行うことが大切である」として、幼児の発達する姿を捉えることと、教師の指導が適切であったかを反省、評価することの両面について行う必要があると示している。本研究では、教師の指導に対する評価を考えながらも、幼児の発達を理解することを評価の重点に置き研究を進めていく。幼児を多面的に観察し、内面を推測していくことで、幼児が十分に表現できない気持ちや意欲を理解し、幼児自身の持っているよさや力を見つけ出していく。その幼児のよさや力を生かした、フィードフォワードの評価をすることにより、一人一人の幼児に添った目標や課題を見つけ出し、指導の手だてや援助の方向を導き出していくことができると考える。

キーワード： 幼児教育 評価 幼児理解 フィードフォワード 多面的 内面推測

### 目 次

はじめに	
I 主題設定の理由	1 1 8
II 研究の方法	1 1 8
1. 研究の仮説	1 1 8
2. 研究の方法	1 1 9
(1) フィードフォワードの評価	1 1 9
(2) 多面的な観察、記録の方法	1 1 9
(3) 事例対象児による観察、記録	1 1 9
III 研究の内容および考察	1 2 1
1. 事例によるフィードフォワードの評価	1 2 1
(1) 事例対象児の抽出と観察の時期	1 2 1
(2) 事例対象児のプロフィール	1 2 1
(3) 事例1. A児について	1 2 2
(4) 事例2. B児について	1 2 7
(5) 事例3. C児について	1 2 9
2. 考察	1 3 1
(1) 幼児の変容	1 3 1
(2) 教師の変容	1 3 1
3. 家庭との連携	1 3 2
IV まとめと今後の課題	1 3 2
おわりに	
・参考文献・指導助言者	1 3 2

<sup>1</sup>川崎市立平間小学校付属幼稚園教諭（主任研修員）

<sup>2</sup>川崎市立新城小学校付属幼稚園教諭（研修員）

<sup>3</sup>川崎市立鷺沼小学校付属幼稚園教諭（研修員）

<sup>4</sup>川崎市総合教育センター研修指導主事

## はじめに

教育の新しい視点から、「社会の変化に主体的に対応し、心豊かに生きる力を育てること」が、幼稚園から高等学校までを通したすべての学校教育に求められている。このことを目指して、幼稚園教育要領には、人間形成の基礎を培う観点から、幼児期の発達の特性を踏まえた幼稚園教育の在り方や内容・方法の基準がしめされている。幼稚園教育は、「環境を通して行う教育である」ことを基本とし、充実した生活を展開することによって、豊かな心情、物事に自分からかかわろうとする意欲、健康な生活を営むために必要な態度などを、それぞれの幼児の中に育てていくことを明確にしている。<sup>1)</sup>それは、それぞれの幼児の持つよさを大切に、望ましい方向に発達を促すという幼児期にふさわしい教育の実現である。

この幼児期にふさわしい教育を実現していくためには、一人一人の幼児に対する理解を深めていくことが必要である。幼児理解に基づいて指導計画やねらいを設定していくことにより、環境の構成や教師のかかわり方も適切なものとなる。幼児をとりまく様々な状況や家庭環境を踏まえ、幼児の発達や成長の過程を捉えて、広い視野にたった幼児を理解をしていくことが必要である。

## I 主題設定の理由

幼稚園教育指導書では、発達について「人間は生まれながらにして、自然に成長していく力と同時に、周囲の環境に対して自分から能動的に働きかけようとする力を持っている。心身の成長に伴い、人が能動性を発揮して環境とかかわり合う中で、生活に必要な能力や態度などを獲得していく過程を発達と考えることができる。」としている。<sup>2)</sup>

幼児は、興味や関心を持ったものに対して自分からかかわり、試行錯誤しながら経験する中で、必要なことを獲得していく。また、まわりからの刺激を受けて、更に興味や関心の範囲を広げ取り入れ、経験を重ねていく中で自分の力を発揮していくことができるようになる。このような“何かに興味や関心を持つ気持ち”や“何かを実現していこうとする意欲”によって、幼児自身の力を培うことができる。このことから、気持ちや意欲が、幼児が自立していくための基礎となると考える。

しかしながら幼児は、自分の思っていることをうまく表現できず、自分勝手な行動や乱暴な行動をすることも

少なくない。また、最近気になる幼児の姿として、活動する前から、‘できない、やりたくない’と拒否してしまい、自分からは、かかわっていかないというような行動が見られる。このような幼児にも、何かに関心を持ち、実現していこうとする気持ちや意欲はある。幼児が何に興味を持っているのか、何を感じているのか、何を実現しようとしているのかを見取り捉えていくことが必要である。

評価について幼稚園教育指導書では、「実践を通して一人一人の幼児の発達を理解することと、教師の指導に対するものとの二面を合わせて行うことが大切である」として、幼児の発達する姿を捉えることと、それに照らして教師の指導が適切であったかどうかを反省、評価することの両面について行う必要があると示している。<sup>3)</sup>一人一人の幼児の発達を理解していくことは、幼児を他の幼児と比較して優劣をつけて評定することではなく、また何歳にはこのような姿であるというような、一般化された幼児の姿に当てはめるものでもない。一人一人の幼児と直接触れ合いながら、その幼児のよさや可能性、発達する姿、心の動きを受け止め理解していくことである。幼稚園での評価は、一人一人の幼児の発達が望ましい方向に促されるように援助するための評価であると言える。幼児がどのような発達の段階にあり、どのように感じているのかを理解することから始まる。一人一人の幼児にとっての活動の意味を捉えていくことから、幼児の発達に応じた指導の方法が考えられる。また、指導計画、ねらいや内容、指導の方法について、適切であったかどうかを検討することにより、よりよい援助の方法を見出すことができる。その中で、幼児は自ら関心のあることに取り組み、活動を展開し、力を発揮していくことができるようになる。そして自分の思いが実現され、幼児自身の持っているよさや力が生かされて、自立の基礎を培うものとする。

## II 研究の方法

### 1. 研究の仮説

幼児一人一人に対する理解を深め、評価していくことにより適切な指導の手だてや援助をすることができる。幼児を理解していくためには、幼児がどのようなことに興味や関心を持ち、どのようなことを感じ、何を実現していこうとしているのかを、見取っていく必要がある。そして、そのことが幼児にとってどのような意味がある

<sup>1)</sup>『幼稚園教育指導資料 幼児理解と評価』 文部省 1992年 2ページ  
<sup>2)</sup>『幼稚園教育指導書 増補版』 文部省 1989年 15ページ  
<sup>3)</sup>『幼稚園教育指導書 増補版』 文部省 1989年 92ページ

のかを理解していくことにより、教師のかかわりも適切なものになってくる。そのためには、幼児の持っている力を見取り、生かしていけるような評価方法が必要になってくる。そこで次のような仮説を設定した。

- ・幼児を多面的に観察、記録し、内面推測していくことで、行動の意味を理解し、幼児の中にある自立の基礎となる力を見つけ出すことができる。
- ・フィードフォワードの評価方法により、幼児に添った課題や適切な援助の方法を導きだし、幼児の自立の基礎となる力を培うことができる。

## 2. 研究の方法

### (1) フィードフォワードの評価

評価とは何かの基準に照らして、幼児の発達の段階や目標が達成できたかということについて判定していくことである。フィードフォワードの評価は、その基準になるものが、幼児一人一人の目標、課題である。その課題は、アセスメントによって、幼児の持っている力をどのように生かしていこうかと予測した幼児一人一人に添ったものである。また、目標や課題はあるが、それが到達できたかどうかというように評価をしていくのではなく、幼児の変化をそのまま受け止め、更に予測して新たな課題を生み出し、前進していく評価の方法である。幼児を多面的に観察し、幼児の実像に近い姿を見取り、幼児の気持ちや思いを推測し、一人一人の幼児のよさや力を見つけ出していく。その幼児の持っている力をもとに、一人一人に添った目標や課題を生み出し、援助の方向を導きだしていく。導きだされた課題や援助の方向に添って、幼児に働きかけをしていく。働きかけを行った後、再び幼児が活動する姿を観察して、幼児の気持ちに添って理解し、評価していく。そして、また新たな課題や援助の方向を導きだしていくということを繰り返していく評価方法である。(評価の構造図 P120)

この方法により、常に幼児の気持ちに添った課題や援助の方向を見つけ出していくことができる。そのためには、教師自身も、幼児の気持ちに添って変容し、新たな視点から幼児を理解していくことが必要になってくる。

本研究における評価の構造図は、1年間の中での計画であり、観察時期の区分については、基本的には学期が目安になっているが、流動的なものである。

### (2) 多面的な観察、記録の方法

幼児をよりよく理解するという視点で、事例対象児を

①担任、②観察者、③参加観察者という違う立場から、観察、記録をする。幼児は、自分の気持ちや思いを表現

するための言葉や力を十分持っていないので、記録をもとに、それぞれが、幼児の行動から内面推測を行い、表出されていない幼児の気持ちや思いを探っていく。また、幼児の気持ちや思いを推測していくと同時に、担任や観察者自身が、幼児に対して感じたことや思いも含め記録していく。その推測したことは、担任や観察者、参加観察者が感じ取った主観的なものであるが、幼児の行動の記録と分けて記入することで、その推測をした根拠が明らかになる。また、これに基づき話し合いをすることにより相互に理解し合い、客観性をもつようになる。

#### ①担任の役割と記録の方法

- ・クラス全体を把握していて、経過がわかり、意図を持って働きかけができる援助者である。
- ・日頃のかかわりと変わらない状況の中で、事例対象児と接しながら観察を行う。
- ・記録については、かかわった援助について、意図を含めて記録していく。

#### ②観察者の役割と記録の方法

- ・客観的な立場から、先入観を持たず、新たなことを見つけ出すことができる。
- ・事例対象児を中心に周りの背景を含め、行動を克明に観察、記録していく。
- ・事例対象児と直接かかわりを持たないで観察する。

#### ③参加観察者の役割と記録の方法

- ・保育に参加し、事例対象児とかかわる中で観察する。
- ・事例対象児を中心にかかわることができ、気持ちに添うように理解をすることができる。
- ・事例対象児に働きかけができ、援助者にもなれる。

### (3) 事例対象児による観察、記録

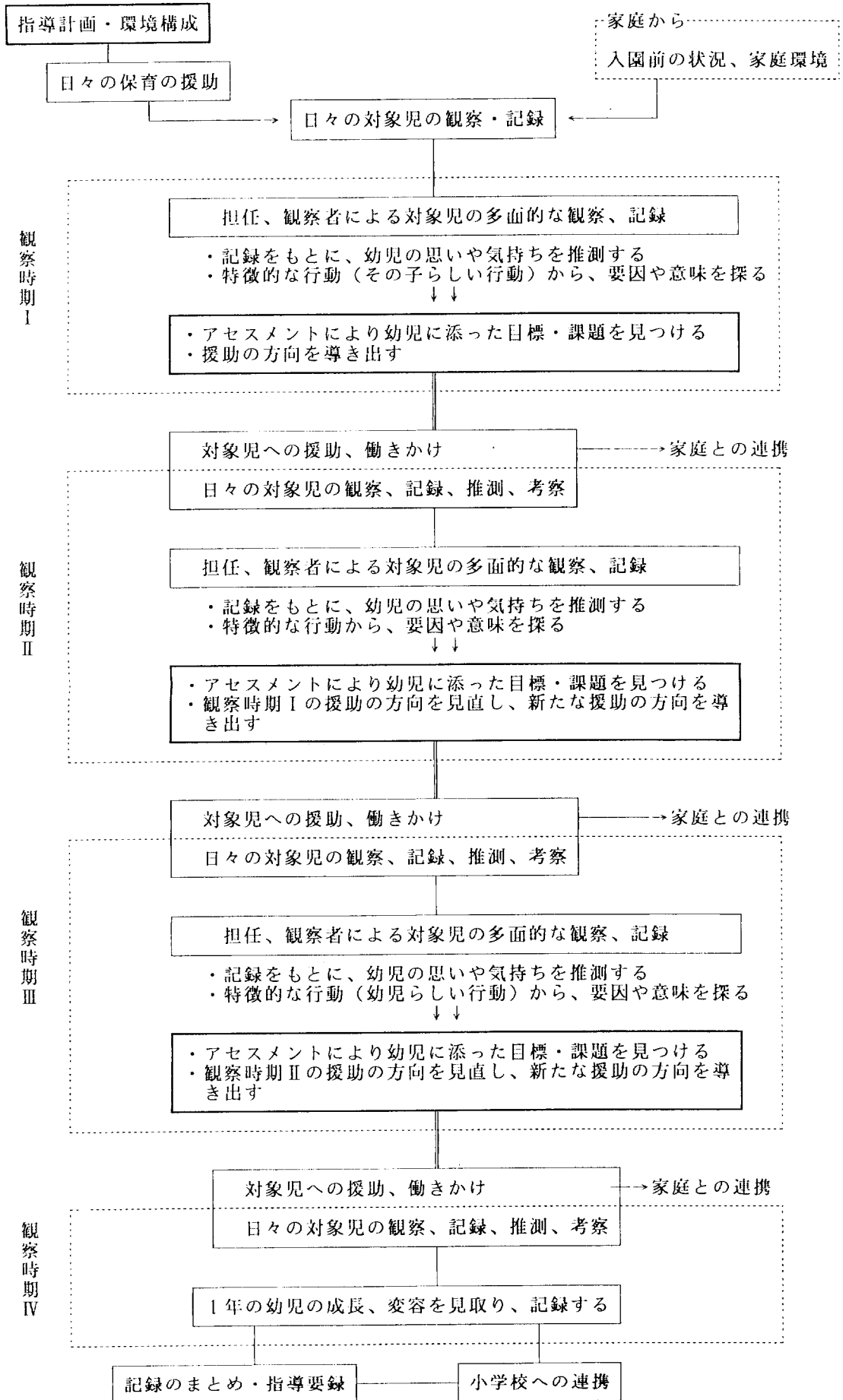
事例対象児を通して、多面的な観察、記録を行い、それをもとにフィードフォワードの評価をしていく。

- ・1年目の研究においては、
  - ◇J幼稚園のY児(男児・5歳)
  - ◇G幼稚園のZ児(女児・5歳)

の2対象児について、多面的に観察、記録を行い、それらの有効性を確認し、フィードフォワードの評価方法で、それぞれの幼児に添った課題や目標を見つけ出し、援助や働きかけを行う。

- ・2年目の研究においては、3事例を通して、多面的な観察、記録をもとにフィードフォワードの評価の方法で、事例対象児の経過観察を行う。入園当初に検証保育を行い、幼児に添った課題を見つけ出し、援助や働きかけを行い幼児が変容していく姿を見取っていく。

# フィードフォワードの評価の構想図



### Ⅲ 研究の内容および考察

#### 1. 事例によるフィードフォワードの評価

##### 対象児の抽出と観察の時期

日々の幼稚園生活の中では、自己を表現できなかったり、乱暴な行動をしたり、また、活発ではあるが、内面が見えにくかったり、不安定でなかなか幼稚園の生活になじめないというような“自立の基礎”と考える幼児のの気持ちや意欲を、日々の保育の中では、見つけることができない幼児を抽出する。

- ◆A児（5歳・男児） 川崎市J幼稚園
  - ・観察時期Ⅰ（5月1日）
  - ・観察時期Ⅱ（日々の記録・7月16日）（1）事例
  - ・観察時期Ⅲ（日々の記録）
- ◆B児（5歳・女児） 川崎市G幼稚園
  - ・観察時期Ⅰ（5月8日）
  - ・観察時期Ⅱ（日々の記録）
- ◆C児（5歳・男児） 川崎市M幼稚園
  - ・観察時期Ⅰ（6月18日）
  - ・観察時期Ⅱ（日々の記録）

#### （2）事例対象児のプロフィール

	A 児（男児）	B 児（女児）	C 児（男児）
生年月日	平成 2年10月 9日	平成 2年12月 3日	平成 3年 1月10日
家族構成	父、母、弟（1歳）	父、母、妹（2歳）	父、母、兄2人（7歳、双子）
入園前の様子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3歳から2年間、私立幼稚園に通園していたが、叔父が通っていたという事で、祖父母の進めで入園してきた。</li> <li>・家で遊んでいても弟に邪魔されて、思うように遊べない事が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2歳から2年半、オーストラリアで過ごす。平成6年6月から平成7年5月までシドニーの幼稚園に通う。</li> <li>・平成7年8月に、日本へ転居平成8年3月まで、地域の自主保育公園フレンドへ参加。</li> <li>・規則正しく健康的にという事から、昼寝をしている。</li> <li>・家庭での教育方針——自主性のある人間、自分の意志で物事を決められる人間になってほしいと考えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・母親が自主保育の活動に熱心で2歳上の兄と共に母子4人で、地域のサークルに参加。</li> <li>・小さい時から、慎重なところがあり、外出先でも母親の近くにいつもいる。</li> <li>・周りのことをよくみていて、兄弟三人の中では、一番しっかりしていると、母親は、心配はしていない。</li> </ul>
入園当初の様子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の要求が通らないと、泣いてパニックになることがある。</li> <li>・物に対する欲が強い。（遊具空き箱等）——他の幼児が製作して置いてあった作品を、自分の物にして、作り変えてしまった。</li> <li>・小さな事で腹を立て、友達に手をあげる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入園式の時、園長先生の話に「わかりました。〇〇できます」と答えていた。言葉が先行している。</li> <li>・「して下さい。できません」とすぐに大人に頼る。頼めばやってくれると思っている。</li> <li>・友達に、自分の言うことを聞かせようとする。</li> <li>・母親にプレゼントするために色々な物を作り持ち帰る。</li> <li>・思い通りにならないと、友達を嘔む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・男兄弟3人の中で育ったわりには「もまれてる」という印象がない。</li> <li>・身の回りの始末ができなかったり、食事の食べこぼしが多いなど家庭のしつけ面での問題を感じる。</li> <li>・集団のゲームや活動に対して抵抗があり、初めはやらないことが多い。</li> <li>・ストレートに甘えを表現できない面や内にこもってしまうところが感じられる。</li> </ul>

(3) 事例1. A児について

A児の観察時期Iにおける評価

《5月1日の多面的な観察、記録》

日時 5月1日(水) 9時~11時  
場所 川崎市J幼稚園

DT …… A児の担任・研究会議のメンバー  
YT・WT・KT …… A児の幼稚園の教師・養護教師  
観察者1(GT)・観察者2(ET)・FT …… 研究会議のメンバー

時刻	Aの行動の記録	観察者1の 推測・解釈	観察者2の 推測・解釈	担任の		
				推測・解釈	援助のあり方	行為
9:07	<ul style="list-style-type: none"> <li>つき山に上り、下を見回す</li> <li>Y男が登ってくると、両手を広げ、追い返す</li> <li>Y男が降りていくと、後を追う</li> <li>Y男の後をもう一人の男児と一緒に追う</li> <li>「おはなしかあるのー」とY男を追いかけつけていく</li> </ul> <p>1 Aが保育室の方へ駆け込むと、追っていくが、YTが立っていて入れないので、「Yのくそかき」とY男を呼ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Aの興奮した様子に、YTが、Aを止める</li> </ul> <p>2 YTを押して、入ろうとする</p> <p>3 「どうしたの? 遊びたかったの」と言われ、「ちがうもん」と園庭の方へ行く</p> <p>4 「バーカ、ぶんなぐってやる」と砂を足で蹴飛ばす</p> <p>5 「バーカ、この幼稚園やめる、死ぬ」とテラスの側に寄り寄り、離れたりしながら、グロープ・ジャングルへ走って行く</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>何かあったのかな。なぜY男を</li> <li>今日朝から、何かあったのかな</li> <li>YTに自分の行動を中断された</li> <li>なぜこんなにすごい勢いで怒っているのだろう</li> <li>YTに自分の思いをなぜ言わないのだろう</li> <li>やっぱり、納得してないかったようだ</li> <li>この時のYTの言葉は、Aの気持ちには、添っていないようで、気持ちを持って余してしまっている</li> <li>おさまらない気持ちを何かで切り替えようと物に当たり、乱暴な言葉を使う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Y男と一緒に遊びたいのか、Y男をからかって楽しんでいるのだろうか</li> <li>自分の気持ちが通じなかったことに腹を立てている</li> <li>素直に自分の気持ちを出していない</li> <li>怒りがおさまらない</li> <li>気になって離れない</li> </ul>			
9:15	<ul style="list-style-type: none"> <li>グロープジャングルに乗り、DTが通りかかると「先生、まわして」と言い、回してくれるのを笑いながらみている</li> <li>DTがグロープジャングルを回してくれると、しっかりつかまっている</li> <li>6 止まると大きな声で、「先生、もう1回やって」と叫ぶ</li> <li>7 DTに向かい再び、ジャングルにつかまわりながら、体をのけ反って「先生、もう1回やって大きな声で言う</li> <li>DTが他の幼児に話しかけていると、周りにいた幼児とテレビの話をし、「こうすれば大丈夫」と言いながら、ジャングルにぶらさがったり、逆さになったりする</li> <li>8 「先生、ほくもっと上に行くから待ってよ」と中から、てっぺんに登ろうとするが、登れない</li> <li>9 何度も「待って、一番上まで行くんだから」と言いながら登る</li> <li>DTが「外から登るといいよ」と声をかけると、外側からよじ上る</li> <li>足がゆがみず、落ちそうになる</li> <li>DTに抱いて支えてもらう</li> <li>10 DTに「大丈夫?」と聞かれ「大丈夫」と答える</li> <li>上に、登り笑顔になる</li> <li>まわしてもらおうと、しっかりつかまっている</li> <li>11 DTが「バイバイ」と行ってしまふ方を見ている</li> <li>「止めて」と下にいる幼児に言う</li> <li>12 ジャングルから降りるが、動くとき「止めて、回さないで」という</li> <li>止まると降りる</li> <li>13 降りてA子の頭をたたく</li> <li>妙の山のトンネル廻りをする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グロープジャングルが好きなのか、DTと遊べるのが楽しいのか</li> <li>結構慎重なようだ</li> <li>DTに回して欲しいんだらうな</li> <li>楽しい気持ちでいっぱい</li> <li>DTと一緒にいることで遊びが楽しくなっているのをよくわかっている</li> <li>今までの経験のあることなんだろう</li> <li>初めての挑戦なのか、かなり慎重</li> <li>動かされると怖いのか、確認しながら登</li> <li>DTのアドバイスに、すぐに反応する</li> <li>DTがいるので、少し思いきって登ったのかな</li> <li>大丈夫と言ってもらい、うれしい気持ち</li> <li>満足した</li> <li>DTがいつてしまうのを意識してるな</li> <li>DTがいつてしまったのが原因では</li> <li>なんでA子のことをたたいていったのかな</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>はやくして欲しいなという表情</li> <li>楽しかった、またやって欲しい</li> <li>期待している</li> <li>とても楽しかったので、アンコールしているんだな</li> <li>うれしそう</li> <li>もっとかかわっていたいけれど、期待がはずれた</li> <li>思い通りにならなかったことを友達に話したようだ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達と一緒にいるのに先生とかかわりたいのかな</li> <li>Aの気持ちをしっかり受けとめよう</li> <li>どうしても上まで登りたいようだ</li> <li>抱き止めて、上に上がる援助をする</li> <li>やっ登れてうれしそう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「大丈夫 待ってるからね」と言いTが登るまで待つ</li> <li>「しっかりつかまってください、出発します」と声をかけグロープジャングルをまわす</li> <li>「バイバイ」と言って行く</li> </ul>	
9:45						

《5月1日の観察、記録からの理解》

【特徴的な行動A-1】

- 1 Y男が保育室へ駆け込むと追っていくが、YTが立っ  
ていて入れないので「Yのくそがき」とY男を呼ぶ。
- 2 YTを押して、入ろうとする。
- 3 「どうしたの？ 遊びたかったの」と言われ、「ちが  
うもん」と園庭の方へ行く。
- 4 「パーカ、ぶんなぐってやる」と砂を足で蹴飛ばす。
- 5 「パーカ、この幼稚園やめる、死ぬ」とテラスの側に  
寄り寄り、離れたりしながら、グローブ・ジャングル  
へ走って行く。

〈行動の読み取り〉

- ・自分の思い通りにならないので腹を立てている。
- ・おさまらない気持ちを、物に当たり、乱暴な言葉  
を使うことで切り換えようとしている。

【特徴的な行動A-2】

- 7 ジャングルにつかまり、DTに向かい再び、体をのけ  
反らせて「先生、もう1回やって」と大きな声で言う。
- 8 「先生、ぼくもっと上にいくから待ってよ」と中から  
てっぺんに登ろうとするが、登れない。
- 10 DTに「大丈夫？」と聞かれ「大丈夫」と答える。上  
に登り、笑顔になる。まわしてもらおうと、しっかりと  
つかまっている。
- 12 ジャングルから降りるが、動くと「止めて、回さない  
で」という。止まると降りる。
- 13 降りてA子の頭をたたく。↓

〈行動の読み取り〉

- ・DTがいると遊びが楽しく、安心して新たな事に  
挑戦しようとしている。
- ・まだDTに遊んでもらいたいという期待がはずれ  
た。思い通りにならなかったことを、A子の頭を  
たたくということで解消しようとしている。

【特徴的な行動A-3】

- 14 歩いている途中で、手に持って使っていたシャベルを  
手から放す。綺麗なシャベルをかごから出して、トン  
ネル掘りの続きをする。
- 16 「片付けよう」とバケツを洗い、そのまま水をこぼす。
- 18 洗った容器を持って歩いていたが、急にほうり投げる
- 19 違う皿を拾って、バケツで洗う。砂が落ちると、皿を  
持って歩いてほうり投げる。
- 20 違う容器を出しては、バケツの水で洗いほうり出す。  
DTに「あれ、洗ったのはどうするのかな」と言われ  
て、ワゴンにしまおうが、また洗ってはほうり出す。

〈行動の読み取り〉

- ・シャベルに砂がついているのが気になるのか、遊  
びの途中で取り替える。片付けの時も、水で洗い  
流しているが、ほうり投げ、最後まで片づける意  
識はない。

【特徴的な行動A-4】

- 21 牛乳パックをとり出して、外の方へ向かう。パックの  
口を開いて砂を入れ、蟻を捕まえて入れる。
- 22 パックを「Y君にあげて」とZに渡し、再び蟻を探す。
- 23 Y男に「蟻探しているの」と声をかける。Y男と一緒  
に蟻を捕まえ、バケツの水に浮かべている。
- 24 DTの片付けの様子を、横目で見ながら蟻を捕まえる。
- 25 DTに「もうお片付けだよ。4匹捕まえたら、入ろう  
ね」と言われるが、蟻を捕まえ続ける。

〈行動の読み取り〉

- ・片付けの時間とは分かっているが、遊んでいた  
という気持ちが先行している。周りの状況から、  
まだ遊んでいても大丈夫と判断している。

【特徴的な行動A-5】

- 26 砂遊びをしている時に拾ったマラカスを（他の幼児が  
空容器で作ったと思われる）持って部屋の中を歩く。  
C子から「それ、Cがつくったマラカスだよ返して」  
と言われる。
- 27 「これぼくのだよ、ぼくが見つけたんだよ」と強い口  
調でAが言うと、C子から「でも私が作ったんだよ、  
返してよ」と言われる。
- 28 「ぼくが拾ったんだよ、落ちてたの拾ったんだから、  
僕のだよ」と返さない。
- 29 DTに「落ちてたものは、みんな拾ってもらっていい  
の」と言われ、「いいよ」と答え返さない。「それじゃ  
何でも落ちてたものはもらっていいのね。」とDTが、  
落とし物の入っている所をさすと、しぶしぶ返す。

〈行動の読み取り〉

- ・落ちていた物は、もらってもいいと思っていて、  
納得していない。
- ・指摘されて、いけない事をしたことに気づいたが  
引込みがつかなくなってしまう。

## 《A児の観察時期Ⅰのアセスメントによる評価》

### 行動からの理解

- いろいろな事に関心があり、好奇心が強く、自分から働きかけようとしているが、人の気持ちを考えたり、周りの状況のみて行動することができない。そのため自分のやりたい事が思うようにできなったり、気持ちが伝わらない事も多く、その時に乱暴な言葉を使ったり、物に当たったりしている。満たされない気持ちを持って余して、切り換えることができない。
- 担任は、気持ちを受け入れて、困った時には助けてくれる存在であり、一緒にいると安心して遊びに取り組むことができると感じている。
- 物に対して欲があり、人の物でも欲しいと思う気持ちが先行して、取ってしまったり、使ったりしてしまう。そのためにトラブルになってしまうが自分ではその理由がまだ理解できない。
- 新たなことへ興味が移るため、遊びが転々とし、片付けに対しても意識が薄い。

### 評価

- いろいろなことへの関心があり、友達や周りにかかわろうとしている。しかし、かかわり方がわからないために、自己表現が思うようにできず、コミュニケーションが取れていない。
- 目的意識があり、やりたいという意欲的な気持ちを持っている。周りの状況を理解できないために人の物でも取ってしまう、使わなくなった物は放り出してしまうなど自分勝手な行動をすることが多い。
- 思い通りにならないと我慢できずに、物や人に当たったり、乱暴な言葉を使ったりして不満を解消して気持ちの切り換えをしている。気持ちを受け入れられないことが蓄積されているために、自分がいけないと分かっても認めることができない。

### 目標・課題

- 乱暴な言葉や行動でなく周りの人に自分の気持ちを伝えられるようになる。
- やりたいという気持ちを大事にして、いろいろな遊びを経験する。
- 友達の気持ちやまわりの状況を考えて行動する。
- 友達とのかかわりが持てる遊びを経験し、友達と遊ぶ楽しさを知る。

- 自分の目的を達成することで満足感を味わう。

### 援助の方向

- ◎どんな思いも、一度は受け入れるようにする。
- ◎なるべく思いが通るように、間にとって気持ちを伝えるようにする。
- ◎良い事、悪い事の区別をはっきり知らせる。◎教師も一緒に遊びに入り、遊ぶ楽しさを十分味わえるようにして、満足感や達成感が得られるようにする。◎関心を持っている遊びのいろいろな場面で、思いを聞き認めるようにする。
- ◎自分でできる事は、自分でできるように働きかけていく。
- ◎片付けることの必要性を場を捉えて感じさせていく。
- ◎気持ちが安定できるように、家庭での様子を聞いたり、園での様子を伝えたりして、家庭との連携をとる。

## A児の観察時期Ⅱにおける評価

### 《日々の観察、記録から》

- ◆紙ばんそうこうを貼ってもらうために職員室に土足のまま入ってきた。砂遊びをしたいために、早く貼ってもらおうという思いでいっぱい靴を脱ぐことに気がまわらなかつたと思われる。(5月10日)
- ◆女兒が使っていた畳を欲しいと訴えにくる。貸してもらえないと、泣いて駄々をこねる。一人の女兒が1枚の畳を貸してくれておさまったが、Aの自分勝手な気持ちが表れた場面であった。(5月13日)
- ◆踊りを、園庭で全員で踊る。みんなが集まってきてもやる気がない様子でふらふらして、目につかない所にいる。興味のない事をみんなと一緒に強要されるのが嫌なのだろうか。(5月14日)
- ◆小学生と玉入れの練習を明日する事を話すと、「雨でもやるの」と聞いてくる。雨ではできないかもしれないと言うと喜ぶ。玉入れは嫌いではないようなのに、練習するということが嫌なのだろうか。(5月17日)
- ◆女兒数人が来て、Aが髪を引っ張ったり、ぶったりすると言う。Aに聞くと自信たっぷりに「うん、黒いマントに閉じ込められている人を助けてあげたの」と言う。Aは、正義の味方きどりで髪を引っ張ったり、顔をぶったりしていたようだ。(5月17日)
- ◆Aとかかかわろうと、言われるままに山に行き、折り紙を折った。いろいろな話をしながら、Aの言う通りの物を作ると、とても嬉しそうで、穏やかな表情をする。ゆったりとかかわりをもつ時間があつたためか、その後の活動がとてもスムーズだった。(5月21日)
- ◆最近、少し我慢できるようになり、自分勝手な行動

が少なくなってきた。わがままを言ったり、泣いても、話せば分かるようになり、泣いている時間も少なくなってきた。いつもなら怒ったり泣いたりする場面であるが、今日は違っていた。砂をかけられても我慢したし、友達と喧嘩して行ってしまったS男を迎えに行ったり、手が出てしまいそうな場面でも言葉で言っていた。水くみも、ジャンケンで順にやる事を提案すると、素直に受け入れて汲みに行った。(6月19日)

#### 《7月16日の観察、記録からの理解》

##### 【特徴的な行動A-1】

- 30登園して、保育室の前から、中に入ろうとしない。
- 31ビニールプールに入って遊んでいる子を見ながら、母親にプールに入りたいとねだっている。
- 32母親が言いかせて、保育室に入り、かばんを置き容器を持って出てくる。
- 33プール遊びをしている子の様子を見る。
- 34YTが、バケツにいろいろな色の色水を作り、籠に容器をたくさん用意したのに気づき取りに行く。

↓

##### 〈行動の読み取り〉

- ・プール遊びがしたいようだが、できないらしく我慢している。
- ・家から持ってきた容器をきっかけに、色水遊びをすることで気持ちを切り換える。

##### 【特徴的な行動A-2】

- 36色水を合わせ、混色して、ヤクルト容器に入れる。
- 37容器がなくなると、他の子が使っていた容器の色水を捨てて、自分の色水を入れる。
- 41新しい容器が出されると、すぐに取りに行き、2つ選んで持ってくる。
- 55色水の容器の方へ行き「ぼくの入れ物がない」と容器をどけながら探す。
- 56容器を片付けてあった籠をひっくり返して探すが見つからない。
- 57「ない」「ぼくの入れ物がない」とWTに訴える。
- 58色水遊びの机の下に落ちていたのを、WTがみつけてくれたので、容器を持って園庭を走りまわる。

↓

##### 〈行動の読み取り〉

- ・色水遊びに夢中になって取り組み、楽しんで遊んでいる。
- ・容器がないことに気づき、探すことに夢中になり周りの状況も入らなくなってしまう。見つかった

嬉しい気持ちを体いっぱい表現している。

##### 【特徴的な行動A-3】

- 40S男に「この色どうやって作るの」と聞かれて「これとこれ混ぜるの」とさす。
- 43DTと女兒が、保育室の前に並んでいる枝豆の植木鉢を見ながら話をしているのを聞いて、色水遊びをしながら「ぼくねえ、家で枝豆できたよ」とDTに向かって、大きな声で言う。
- 48色水を2個カップに入れ、DTに持って行く。
- 49DTが「なあに」と聞くと、「これはプリンだよ」と答える。
- 50DTがそばにいたI男にも「I君はどっちが好き」と声をかけるとI男をじっと見る。
- 51A男が「こっち」とさした方をDTが食べ、もう一つもたべようとすると、Aが「これは、I男くんの」とI男に渡す。
- 62帰りの支度をして集まり、DTに本を読んでもらう。
- 63D男が話しかけ、AはD男の方を見るが、すぐにDTが読んでくれる本を見る。
- 65D男がしきりに、Aにかかわるが、本を読んでいるのを聞いている。

↓

##### 〈行動の読み取り〉

- ・DTが何をしているかが、気になり、女兒との会話に自分も参加する。
- ・DTを媒介にしてI男にかかわり、S男に聞かれた時も答えたりとコミュニケーションをとれるようになってきている。
- ・集まりの活動の時、みんなと一緒に集中して本を見ている。D男が邪魔をしても集中している。

##### 【特徴的な行動A-4】

- 44M男が立とうとしてAにぶつかり、AはM男の顔を平手でたたく。
- 46M男が振り返った時、もう一度顔をたたく。
- 47DTにたたいた理由を聞かれ、一点をみていたが、促され「ごめんね」と言う。
- 66D男がAにぶつかってしまい、AはD男を見るが、D男は気づかずにいたので、AはD男をたたく。
- 68激しく何度もD男をたたく。
- 69DTに「どうしたの」と聞かれて、D男がぶつかってきたので、たたいたと答える。
- 70DTに「Dちゃんだって、わざとやったのではないんだし、ぶつかったら、たたいていいの」と言われ、D男をみて謝る。

↓

〈行動の読み取り〉

- ・友達が知らずにぶつかってくると、その状況を理解できずに、友達をたたいてしまう。
- ・自分にぶつかってきて、気づかない友達に怒り、一度だけでは、気持ちがおさまらず何度もたたいてしまう。
- ・教師の媒介で、気持ちが落ちつくとき、たたいた事はいけないということがわかり、謝れるようになってきている。

【特徴的な行動A-5】

- 53バケツの色を混ぜてもいいとY Tに言われて、足洗いのバケツに他のバケツの色水を混ぜる。
- 59 Aの散らかした容器を、他の幼児が片付けるのをWTが止め、Aに「入れ物が見つかって良かったね。Aさんが探すために出したんだから、先生も手伝うからしまおう」と声をかけ、WTが片付け始める。
- 60 Aも幾つか拾い集める。WTに「そこにもあるよ」と言われ、集めてくる。
- 61最後までWTと一緒に片付ける。



〈行動の読み取り〉

- ・片付けはできるだけしたくないという気持ちはあるが、遊びに満足すると片付けるようになってきている。Y Tが最後に流すバケツで、色水遊びをさせてくれたので、素直に片付けている。
- ・WTがAの気持ちを汲んでくれ、探していた容器を見つけてから、片付けをしたので、素直に行動することができている。

《A児の観察時期Ⅱのアセスメントによる評価》

行動からの理解

- ・自分のやりたい遊びができないことがあっても、事情を理解することができれば、我慢できるようになってきている。遊びや物によって自分の気持ちを切り替えている。
- ・気持ちが安定してきて、集中して遊びに組み合っている。また、集まりの時にも自分から積極的に参加して、絵本を集中して見ている。
- ・担任だけでなく他の教師に対しても自分からかわり信頼していることがわかる。
- ・観察時期Ⅰには、ほとんど意識のなかった片付けに対しても、教師の働きかけがあればできるよう

になってきている。

- ・自分の思い通りにならないと、乱暴な行動をする事もあったが、教師に気持ちを共感してもらうことにより、気持ちが落ちつくとき自分の否を認められようになってきている。

評価

- ・気持ちが安定してきている。いろいろな事に対して意欲的に、自分なりに考えて取り組み楽しんでいる。じっくりと遊び、集まりで話をきく時も集中している。
- ・友達に対して自分からかわり、コミュニケーションを取ろうとしている。友達の気持ちを考えるようになり、教師が間に入れば、やさしくかわられるようになってきている。
- ・思い通りにならないと、乱暴な行動をしてしまうことは多いが、教師が理解できるように話し、納得できると素直に謝れるようになってきている。

目標・課題

- ・自分の気持ちや思いを言葉で人に伝えていけるようになる。
- ・人の気持ちや周りの状況を考えて行動していくようにする。
- ・何かをしたいと思う気持ちや意欲を大事にして、いろいろな遊びを体験する。
- ・友達とかかわって遊び、一緒に遊ぶ楽しさを体験する。
- ・自分の思いや目的を達成し、満足感を味わう。

援助の方向

- ◎なるべく思いが通るように、間にたって気持ちを伝えると共に、友達の気持ちにも気づかせていく。
- ◎良い事、悪いことの区別をはっきり知らせる。
- ◎教師も一緒に遊び、遊ぶ楽しさを十分味わえるようにして、満足感や達成感が得られるようにする。
- ◎関心を持った遊びのいろいろな場面で思いを聞き、認めるようにする。
- ◎自分でできる事は、自分でするように働きかけていく。
- ◎片付けに対しての必要性を場を捉えて感じさせていく。
- ◎素直に謝れたり、人のことを思いやることができた時は認め、気持ちを共感していく。
- ◎園での様子、成長が感じられたこと等を伝えることで家庭の理解を得るようにする。

## A児の観察時期Ⅲにおける評価

### 《日々の観察、記録から》

- ◆木工で剣を作るが、遊びの中で使えないことが分かりがっかりする。教師の提案で色を塗り、棚の上に飾っておくが、昼食後の遊びの時、S男を剣でたたいてしまう。約束が守れなかったので、返してもらえないと分かると泣きだしパニックになる。降園時に母親と約束してから返すことを話すが、受け付けず30分泣き続けた。最後は提案を受け入れる。(9月10日)
- ◆絵本貸し出しの日に、人気のあった本を友達に借りられてしまい、怒り半べそをかき、「お母さんに見せたかった」と文句を言う。貸し出しはできないが、母親に見せるだけならと教師の本を貸せることを話すと、落ち着き違う本を借りに行く。(9月12日)
- ◆忍者の恰好をして出てきたが、降園時刻になっていたもので、遊べないことを話すと泣いて外へ行ってしまう。帰りの集まりで大部分の幼児があつまるとA児も戻ってくる。きっと遊びたかっただろう。自己抑制ができるようになってきている。泣いてふてくされたもの自分から戻ってきた。(9月13日)

### (4) 事例2. B児について

## B児の観察時期Ⅰの評価

### 《5月8日の観察、記録からの理解》

#### 【特徴的な行動B-1】

- 1 大きなこいのぼりの絵に「目玉に塗っちゃおう」「おもしろそうだと思うわい」とE子とY子を誘い、目玉に塗り続ける。
- 2 Z男に「そんなのおかしいよ」と言われるが「ピンクの目玉」と言いながら、もう一方の目玉に塗り続ける。
- 3 M子が黄色の絵の具を持って来ると「目玉は、ピンクだから駄目だよ」とM子に言う。
- 7 絵の具と一緒に片付けたY子、R子に「誰も見つけに来ないけど隠れよう」と誘い、自分はオルガンの下に隠れる。
- 9 保育室からホールに戻って「誰もいないけど隠れてて」とY子、R子に言う。 ↓

#### 〈行動の読み取り〉

- 自分のイメージする遊びがあって、その通りにして遊びたい。絵の具遊びでは、色が混ざったり、自分のしていることを邪魔されると強い口調で拒絶している

- 友達に対して、自分の思い通りにさせようと指図して、遊びを進めている。

#### 【特徴的な行動B-2】

- 11 ホールにE子と一緒に戻って来て、E子が「いないよ、ここには」とY子とR子を探しながら言う。「知っている、私が隠したんだからいるよ」と言いピアノの方へ行き、下にもぐる。
- 12 E子が「私、鬼になってあげる」というと、Bがピアノの下から出てきて、E子を捕まえようとする。
- 14 E子が逃げ出すと、Y子、R子も一緒に逃げ、Bは追っていくが途中でやめる。戻ってきた3人が、見つけて「Bちゃん」と呼ぶが、知らん顔でM子の所へいく。
- 16 ETに「落とし穴作ってるの」と言い砂場の鉄柱に、シャベルをぶつけながら「私、Eちゃん嫌い」と言う。
- 17 ETに「けんかしたの?」と聞かれ「だって、私に意地悪するんだもん」と答える。

↓

#### 〈行動の読み取り〉

- E子が遊びの仲間に入り、思い通りの遊びができなくなってしまうと、遊びから離れる。E子が意地悪をしていると捉えている。

#### 【特徴的な行動B-3】

- 20 「Bちゃん、先生の服にかかっちゃったじゃない」とETが笑いながら言うと、それを見て笑い砂をETにつける。
- 22 シャベルに砂を入れて、ETにかけに行く。
- 23 「いやだBちゃん」とETが困った様子でBを追ってくと逃げる。
- 25 ETの顔を見ながら、笑って逃げる。
- 26 ETが追って来なくなると、再び砂をシャベルに入れて、かけるのを繰り返す。
- 27 ETの背中にとびつき、よじ登る。
- 28 「いやです」と言って下りようとしない。
- 30 シャがんでいる背中によじ登り、おんぶする。
- 41 「片付けましょう」とETから声がかかると、ETの傍にかけより「E先生、さっきは砂投げてごめんなさい」と言う。

↓

#### 〈行動の読み取り〉

- ETにかかわってもらうことが楽しくてたまらない。砂をかけたことからおんぶしてもらえると、素直に甘えたい気持ちを表現できている。
- 気持ちを受け入れられたので、素直に謝ることが

できている。

#### 【特徴的な行動B-4】

33 E Tが側に寄り、ころんで打ったひざを見て、職員室に連れて行ってくれる。

35「痛かったね」と優しく言うMTの言葉にうなづく。

37 MTが「Bちゃんはどうしたの」と聞かれ「平均台にぶつかっちゃったの」と答える。

39 治療が終わると、MTが「砂を投げて、お友達の嫌がることしていると『意地悪Bちゃん』っていわれるよいいの?」と聞かれ、「うん」と首を振る。

40「Bちゃん、うちのE先生に砂かけないでね」とMTに言われ「うん」と大きくなづく。



#### 〈行動の読み取り〉

- ・怪我をしたことをきっかけに、MTに気持ちを受容してもらい、素直に話を聞き入れることができている。

#### 《B児の観察時期Ⅰのアセスメントによる評価》 行動からの理解

- ・自分のイメージがあって、その通りに遊びを進めようとする気持ちがある。遊びが思い通りにならなったり、友達に邪魔されたりすると強い口調で拒絶する。リーダーシップを取って遊んでいる時は楽しんでいるが、友達によって遊びが変わると、その幼児を意地悪と捉えている。
- ・自分の気持ちを素直に表現でき、担任に気持ちを受け入れてもらい、おんぶして甘えさせてもらったことが嬉しい。
- ・気持ちを切り換えるきっかけを自分ではつかめない。気持ちが受容してもらえると素直に話を聞き入れ謝ることができた。

#### 評価

- ・遊びに対して意欲的で、自分なりの発想や考えがある。思いを実現したいために、友達に対して無理強いしたり、指図に従わない友達が意地悪と捉えている。
- ・思いが通らないと、口調がきつくなり攻撃的になる。自分の気持ちが先行して、人の気持ちやまわりの状況までは考えることができない。
- ・教師とかかわりたい、一緒に遊んでもらいたい気

持や大人からいい子に見られたい思いがある。

- ・気持ちが受け入れられ満たされると、素直に自分の気持ちを表現し、謝ることもできる。

#### 目標・課題

- ・自分の気持ちを素直に表現する。
- ・人の気持ちやまわりの状況を考えて、行動できるようになる。
- ・好きな遊びをみつけて、友達とかかわって遊ぶ。
- ・コミュニケーションの仕方を知り、友達に対して優しい気持ちを持つ。

#### 援助の方向

- ◎気持ちを受け入れて、思いができるだけ通るようにして、自分の気持ちを素直に表現できるようにしていく。
- ◎自分で好きな遊びをみつけられるように、興味を持てそうな遊びを取り入れ、知らせしていく。
- ◎良い事、悪い事の区別をはっきり知らせる。
- ◎教師も一緒に遊びに入り、遊ぶ楽しさを十分味わえるようにして、満足感や達成感が得られるようにする。
- ◎友達とスムーズに関係がとれるように教師が媒介役になる。
- ◎自分でできる事は、自分でできるように働きかけていく。
- ◎大人の目を意識していて、「いい子」でいようと振る舞うことがあるので、家庭との連携をはかり、周りに気にせず素直に行動できるような働きかけをしていく。

#### B児の観察時期Ⅱの評価

##### 《日々の観察、記録から》

- ◆自分でやりたいと言ってはじめてダンスなのに、ちっとも楽しくなさそう、自分で本当にやりたい事が見つからないようだ。(5月15日)
- ◆友達が遊んでいた遊具の中に無理に入って、押し出されて怪我をして泣く。楽しそうに遊んでいる友達を見て、うらやましくなり、自分も仲間のつもりで入ったようだ。(5月22日)
- ◆友達をからかって逃げるが、追いかけてこないで、友達を背中をたたき泣かせてしまう。訳を聞くが、悪いことをしたという意識も薄い。(6月24日)
- ◆友達を遊びに誘うが誰も反応しないと「私の家に来る人この指止まれ」と遊びに誘う。友達を自分の思い通りにさせようと考えての行動のようだ。(6月25日)
- ◆絵の具遊びで2色目の色を欲しいと言ってきた時に、気持ちを受け止めてから、あげられないということ、

話したところ素直に納得していた。(9月4日)

◆積み木を片付けようとして、友達に頭に当たってしまう。一緒に遊んでいた友達であったことからか、素直に謝り養護教諭の所へつれて行く。(9月10日)

◆忍者の衣装を着て遊び始めた友達を、お弁当を食べながら、「がんばれ」「かっこいいよ」と応援している表情がとても穏やかで、にこにこしながらみている。友達を認め、応援する気持ちが育っている様子を感じさせた。(9月18日)

◆お弁当を持って座る場所を探している教師に、自分の場所を動いてあげてくれ、友達にも声をかけてくれる。以前なら自分は動かずに、友達に指図して動かしていたのに、自分から先に動いていた。口調が柔らかく明るいので、文句もでない。認められていることが分かる。(9月18日)

### (5) 事例3. C児について

#### C児の観察時期Ⅰの評価

#### 《6月18日の観察、記録からの理解》

##### 【特徴的な行動C-1】

- 1 部屋に入り、T男、H男、S男が積み木を高く積み上げて遊んでいるのを見る。
- 5 積み木が倒れると、自分も積み木を積み始める。
- 8 T男達が天井近くまで積み上げたのを見て「すごい、すごい」と言い自分も積み上げる。
- 15 T児達が高く積み上げた積み木をままとの包丁で切り倒すと、散った積み木を拾い、自分の方に積む。
- 17 積み木を男児に渡しにいくが「Cちゃん、もういらないよ」と言われ、渡した積み木を持って戻る。
- 18 「包丁さがしてるの。倒す時『じゃん』ってやるの」と包丁を振り回すまねをする。
- 26 T男が「攻撃開始」と積み木の下で包丁を振り回すのを見て、体を動かし声を出す。
- 29 積み木を持ってきて「はい、Tくん」といって渡す。

↓

#### 〈行動の読み取り〉

- ・ T男達の遊びに興味を持ち、自分も同じような遊びをする。T男達の遊びを意識して、自分も仲間に加わっているような気持ちになっている。

##### 【特徴的な行動C-2】

- 35 保育室に戻り、UTの背中に登り、おんぶしてもらう。
- 50 GTに「どんジャンケン、どっちのチームにはいるの」聞かれ、「Uチームに入る」と答える。

- 59 UTに「やろう」と声をかけられ、立たせてもらう。
- 61 UTと手をつないでもらい、一緒にジャンケンをする。
- 62 1回目のジャンケンで勝ち、2回目で負ける。
- 63 ゲームの後、線の上を「ビーン」と言いながら走る。

↓

#### 〈行動の読み取り〉

- ・ UTは気持ちを受け入れてくれるので、一緒にいると安心できる。困った時、UTは助けてくれるので、自分から側に行ったり、行けない時は目で追っている。

##### 【特徴的な行動C-3】

- 36 Z Tが「開戦どんがいい」と聞くと、Cが「やだ、どんジャンケン」と言う。
- 37 Z Tが「どんジャンケンがいい人」と聞くと手をあげるが、すぐおろす。
- 38 Z T「開戦どんがいい人」と聞くと小さく手をあげる。
- 39 多数決でどんジャンケンをすることになり他の子はホールに行くが、座ったまま動かない。
- 40 GTが、「開戦どんは、Z先生が『明日やろう』って言ってたから、明日やろうね」と言う。「ううん」「やだ」と言う。

↓

#### 〈行動の読み取り〉

- ・ 集団の遊びに、なかなか入ることができない。特に、自分がやりたくない遊びだったので、不安な気持ちでいっぱいになっている。
- ・ ホールに行きたい気持ちはあるが、きっかけを自分ではつくりだせなくなっている。

##### 【特徴的な行動C-4】

- 46 みんながどんジャンケンをしているのを見る。
- 47 どんジャンケンの線を走りよこぎる。
- 54 自分の順番になると座りこんでしまう。
- 56 座ったままジャンケンをしないで、はって相手チームまで行き寝ころぶ。
- 57 GTの「Cちゃんの番だよ。どうするR子ちゃんに変わってもらう？」の言葉にうなづく。

↓

#### 〈行動の読み取り〉

- ・ ジャンケン遊びが、自分にもできそうなので、興味をもったが、きっかけがつかめないので入ることができない。
- ・ 走りまわったり、這ったりして、自分がそこにい

ることをみんなに知って欲しい。

### 《C児の観察時期Ⅰのアセスメントによる評価》

#### 行動からの理解

- 友達のしている遊びに興味を持っているが、仲間には入っていくことができない。側で平行して、同じような遊びすることで、自分も遊びに加わっているような気持ちになっている。
- 気持ちを受け入れてくれる教師の所在を意識していて、合間にそばに行くことで安定した気持ちになっている。
- 集団の遊びは、「できなかつたらどうしよう」というような不安な気持ちが先行して参加することができない。友達が遊んでいる様子を見て、興味を持ってはいるが、入るきっかけを自分でつかめない。
- 自分があることをみんなに知って欲しい、認めてもらいたい気持ちがある。素直に思いを表現できないために自分でも気持ちを持って余している。

#### 評価

- 友達の遊んでいる様子を見て自分では一緒に遊んでいる気持ちになっている。
- 遊びに対して興味を持ってやってみようという気持ちは出てきているが、素直に自分の思いを表現することができない。また遊びに入るきっかけやタイミングをつかめない。
- 集団での遊びに対しては、不安が強く働いて、気持ちとは裏腹に行動してしまい、自分の気持ちを持って余している。
- 一緒にいると気持ちが安定する教師のそばにいたい。友達に対してかかわり、自分を表現していくことが難しく、気の合った友達や好きな遊びを見つけることができない。

#### 目標・課題

- 友達とかかわりをもって遊ぶ。
- 自分の好きな遊びを見つける。
- いろいろな遊びを経験していく中で、遊びの楽しさを知る。
- 自分の思っていることを言葉や様々な方法で表現する。

#### 援助の方向

- ◎気持ちを受け入れて、安定してすごせるように見守る。
- ◎興味を持てるような遊びに誘い入れて、経験させていくようにする。
- ◎教師も一緒に遊び、遊ぶ楽しさを十分味わえるようにして、満足感や達成感が得られるようにする。
- ◎自分でできることから、自分でできるように働きかけていく。
- ◎友達とのかかわりが持てるように媒介者となる。
- ◎集団の遊びについては、少人数で自然に入れるようなきっかけをつくる。
- ◎食事や衣服の着替えなどの生活習慣については、家庭との連携をはかり、一人で始末できるような物を準備してもらい、自分でできるようにしていく。

### C児の観察時期Ⅱにおける評価

#### 《日々の観察、記録から》

- ◆小麦粘土に進んで取り組み、感触を楽しんでいた。友達への働きかけも少しづつ広がっているように思う。見ていただけだった手遊びは、少し手が動いている。(6月26日)
- ◆プールの日、「入りたくない」と言いみんなが水着になっても服のままであった。理由を聞くが答えず、何とか水着に着替えたが、プールサイドで立ったままだった。休憩にプールに誘うと「だってしみるもん」と答えた。昨日足の皮がむけて痛かったそうで、試しに水をかけたところ何ともなく、2回目からプールに参加し、嬉々として水をかけ合って遊ぶ。(7月2日)
- ◆クイズに自分が指してもらえなかったと蹴る。他の子が外に出た後、クイズに答え、笑顔で外に並ぶ。周りの状況より、自分が答えたいという気持ちの方が強く、答えたことで満足している。(7月3日)
- ◆「今日は後ろから“さよなら”して」と一番後ろに並んだが、後ろに男児が並んでしまったので、列から離れた。男児が後ろについたことで、顔はくもり不機嫌になり、おさまらないまま降園した。(7月3日)
- ◆「ゲーム」をしようと「爆弾」を渡すと投げた。ふざけているのかと思い「だめだよ」と言うとゲームから外れ、うんうんと言いながらピアノを弾いているUTの背中をゲームの間中たたき続ける。「爆弾」を持った時はにこにこしていたが、「だめだよ」と言われた時から表情が険しくなり、後ずさりを始める。咎められたと感じてしまったのだろうか。(7月10日)
- ◆グループを決めるためにくじ引きをする。男児の列に並んでいたが、教師の所へ来て、寝ころがり足を蹴る。

訳を聞いても何も言わず、グループが決まらないことを言うといきなり叩き始める。少しきつく訳を聞くとなを向いて泣き出す。C児の甘える気持ち受け入れてきたが、自分の思っていることを表現していないことが気になる。(9月6日)

- ◆近くの公園に散歩に行こうと誘った所、行ったことがあるからいかないと言う。他にも2人の幼児が行かないと言ったが、誘うとすかさず訂正する。C児は行かないと通す。行きたくないのなら、留守番していてもいいと言うと追ってきて叩く。歩き出すと走って追いつき、自分の並ぶ順の所に入ってケロツとしていた。(9月11日)

## 2. 考察

### (1) 幼児の変容

一年の経過の中ではあるが、幼児は大きく変容していることがわかる。

- A児については『自分の思いが通らないと、泣いたり、乱暴な言葉を言ったり、人や物に当たったりしておさまらない。周りの人や状況のみて行動することができず、自分が欲しければ人の物でも取ってしまう。自分勝手に社会性が育っていない』と捉えていたことが、多面的に理解していくことにより、『友達とかかわりたい気持ちはあるが、方法がわからない。いろいろな事に関心があり、自分からかかわろうとしているが、人の気持ちを考えることができない。いろいろな事に関心があるため、新たな事をしたくなり、遊びに集中できない』と理解できる。この理解をもとに、働きかけていくことにより、観察時期Ⅱには、『我慢しようとする気持ちが芽生え、乱暴な言葉や行動も減ってきている。いろいろな事に興味を持ち、気持ちが安定して、落ちついてじっくりと集中して遊びに取り組み、友達と一緒に活動している場面も増えてきている』と見取り、評価ができる。
- B児については、『自分の思い通りに遊びを進めようと、友達に対して指図する。気にいらないことがあると、強い口調で詰問したり、噛みついたりする。大人に対しては、丁寧な口調で頼み、自分のできる事でもやってもらおうとする。母親を喜ばせようと頻繁にプレゼントを作って持ち帰る』と捉えていたことが、多面的に理解していくことにより『意欲的で、遊びに対して自分なりの思いが強くあり、実現しようとしている。言葉や行動でしっかりしていると感じとれるが、友達とかかわり方がわからない。大人に対しては甘えたい、認めてもらいたい気持ちが強く、大人の顔や様子を見て行動しているような面が見られる』と理解できる。また『家庭での母親とかかわりの中で気持

ちが満たされていないのではないか』と推測される。このことから、課題や援助の方向を導きだし、家庭との連携をとりながら働きかけた。そして、日々の観察の中から『教師は信頼できる存在で一緒に遊んでもらえることが嬉しい。気持ちが受け入れられ安定してきて、素直に自分の気持ちを表現できるようになり、口調も優しく人に対しても思いやりのある行動がみられるようになってきている。自分自身で遊びを楽しみ、指図することも少なくなり、明るい表情で友達と遊ぶ』と見取ることができる。

- C児については『みんなで一緒に遊ぶ活動に対して抵抗があり、かたくなになってしまい入らない。身の回りの始末ができなかり、食事の食べ残しが多い。自分の思っていることをなかなか表現せず、友達ともかかわろうとしない。友達の働きかけに対しても反応しないことが多い』と捉えられていたことが、多面的に理解していくことにより『遊びに対して関心はあるが、友達に声をかけるきっかけがつかめない。興味や関心はあっても、うまくやりたい、やれなかったらどうしようという不安な気持ちが先行している。友達の様子を傍観しているように見えることも、自分では参加している気持ちになっている。教師に対しては、困った時に助けてくれる、一緒にいると安心できる存在であると感じているが、自分の思っていることを十分に伝えることができない』と理解することができる。このことから、気持ちが安定できるように信頼関係を築き、無理強いしないように働きかけを行う。『“嫌だ” “やりたくない” というような言葉や、泣いたり叩いたり行動ではあるが、自分の思いを表現できるようになってきている。興味のある活動には、きっかけを作ってもらえば、入れるような場面もでてきている』と日々の記録の中から見取ることができる。

### (2) 教師の変容

幼児の変容は、幼児に添った課題や援助によって幼児自身が変容していったと同様に、アセスメントによって教師自身の幼児に対する理解を深めていったことが大きくかかわってくる。

- 幼児の行動をみていくと、幼児の側には必ず幼児の行動をさせるだけの理由があることがわかる。
- 観察者となることで、担任とかかわりの中では、日頃見落としてしまうような行動からも、幼児の気持ちや意欲を見つけ出すことができた。
- 一つと同じ行動を推測しても、読み取る教師によって、幼児の気持ちが様々に解釈され、幼児への理解を深めることができ、幼児の気持ちに添った課題をみつけ出すことができた。

この事例対象児を通しての幼児理解から、教師の幼児を見る目が変容したと考えられる。

### 3. 家庭との連携

幼児を理解するためには、家庭からの情報を得て、幼児が育ってきた過程を理解することが必要である。また園での様子を伝え、家庭との連携を密接にしていくことによって、幼児との信頼関係を築き、幼児は安定して生活を送り、自分の力を発揮していくことができる。しかし、保護者にも自分なりの子育てに対する考えがある。教師が一方的な見方や考えを押しつけては、連携することにはならず、かえって関係を難しいものにしてしまうこともある。B児の例では、“母親のことを気にかけている” “大人の顔を見る” というような行動から、B児の気持ちが家庭で十分満たされていないのではないかと思われた。母親にB児の気持ちを受け止め、甘えさせて欲しいと伝えたが、母親には自分なりの考えがあった。そこで、幼稚園で、B児の気持ちを受容して、十分に甘えられるような配慮をすると共に、母親の気持ちに共感し、解きほぐせるように働きかけた。また父親の理解も得られるように働きかけていった。かたくなになっていた母親の表情に笑みが出てきて、B児に対してもゆとりをもってかかわっているように感じられる。他の幼児の母親ともなごやかにかかわっている様子である。このことから家庭との連携は、家庭への理解から始まり、家庭からの信頼を得ることが大切なことであると考えられる。

## IV まとめと今後の課題

幼児を多面的に観察していくことにより、行動の要因や新たなよさを発見することができた。また観察者という異なった視点から、幼児の思いや気持ちにせまり、幼児をより深く理解することができた。その幼児理解に基づいたフィードフォワードの評価によって、一人一人の幼児のよさや力を生かした課題や援助の方向を導き出し、「自立の基礎」となる力が培われたと考えられる。この培われた幼児の力が生かされていけるように、更に、家庭や小学校と連携を重ねていくことが必要であると考えられる。

## おわりに

この研究を通して、幼児をより深く、広い視野で理解したことにより、教師自身の幼児を“見る目”を培うことができた。この“見る目”は、今後、様々な幼児を理解していくために生かしていけるものと考えられる。

最後に、本研究を推進するにあたりまして、貴重な指導、助言をいただきました先生方をはじめ、研究を支援して下さった各所属園の園長先生、並びに教職員の皆様に心より感謝申し上げます。

### 【参考文献】

- 滝沢武久 『子どもの思考と認識』 童心社 1977年
- 奥田真丈・河野重男・今野喜清 『幼稚園・小学校の教育改革』 教育出版 1985年
- 藤岡完治 『授業技術講座2』 ぎょうせい 1988年
- 文部省 『幼稚園教育指導書 増補版』 1989年
- 『幼稚園教育指導資料 幼児理解と評価』 1992年
- 森上史郎・高杉自子・野村睦子・柴崎正行 『幼稚園教育と評価』 ひかりのくに 1992年
- 東洋 『子どもの能力と教育評価』 東京大学出版会 1992年
- 井上初枝・神長美津子 『幼児指導要録の記入』 明治図書 1992年
- 川喜田二郎 『発想法』 中公新書 1992年
- 「教師の子供を見る目を育む」 研究紀要第6号 川崎市総合教育センター 1993年
- 渋谷憲一 『測定・評価・アセスメントの構図』 教育展望第40巻第9号 教育調査研究所 1994年
- 「幼児教育における評価の位置についての一考察」 研究紀要第8号 川崎市総合教育センター 1995年
- 奈須正裕 『学ぶ意欲を育てる』 金子書房 1996年
- 「内から育つ」 研究紀要 長野県伊那市伊那小学校 1996年

### 指導助言者

- 電気通信大学名誉教授 滝沢 武久  
(川崎市総合教育センター専門員)
- 横浜国立大学教授 藤岡 完治  
(川崎市総合教育センター専門員)
- 川崎市立生田小学校付属幼稚園長 岡村 武司  
(前川崎市公立幼稚園協議会長)
- 川崎市立川崎小学校付属幼稚園長 小室 富  
(川崎市公立幼稚園協議会長)